令和３年度　国立那須甲子青少年自然の家　地域ぐるみ事業

# 「保育者・指導者ための体験会」報告書

令和３年１０月１０日（日）

【目的・趣旨／概要】

自然の中で遊ぶことの魅力を参加者自ら体感することにより、幼児が主体的かつ自由に遊ぶことのできる環境を考える。また、自然体験活動を実施する際の安全管理の考え方について学ぶ。

【連携先】

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科准教授　　柴田　卓 氏
郡山女子大学短期大学部幼児教育学科生

【参加者】

対象：郡山女子大学短期大学部幼児教育学科１・２年生
実績：２０名

【プログラム概要】

| |
|---|
| 【集合・受付】【はじめの会】　１０時００分～１０時１５分 |
| 【実技】　１０時２０分～１２時００分<br>「自然散策体験活動」というテーマで、柴田先生の指導のもと、ネイチャーゲームをペアで行った。その後、自然散策をしながら、ネイチャービンゴをし、幼児への指導の仕方やセーフティートークについての理解を深めることができた。 |
| 【実技】　１２時００分～１４時００分<br>「焚き火体験」というテーマで、火起こし体験をし、焚き火での焼き芋作り、湯沸かしを行った。焚き火の仕方、焼き芋作りの仕方について習得することができた。 |
| 【昼食・休憩】　１４時００分～１４時４５分<br>焚き火をしながら、昼食をとり、休憩をした。和やかな交流の場となった。 |
| 【おわりの会】【解散】　１４時４５分～１５時００分 |

【成果】

・今回、講師である柴田先生と連携し、コロナの状況の中で郡山女子短期大学部に対象を限定し、広報活動することにより、学生である参加者確保をすることで事業を実施することができた。
・実技のはじめにアイスブレイクを入れた。その後、五感を使った実技を体験することで、参加者の表情もほぐれていった。わくわく広場周辺から野外炊事場までを散策する頃には、楽しく会話をし、意欲的にプログラムに参加する姿が見られた。
・実技が中心であったため、自然あふれる当施設の魅力を再確認すると共に、幼稚園などの団体が利用する場合の活動プログラム作りの参考となった。

《参加者の声》

・自分で火を起こすこと、本当に楽しかったです。
・焚き火では、時間をかけてできた時の達成感があった。
・普段、話したことがない人とも話すことができてよかったです。
・自然散策で歩くことができて楽しかったです。
・自然の中で、木に登ったり、ハイキングコースを歩いたり、火を自分たちの力でつけたりと、なかなかできない体験ができて楽しかったです。
・内容が保育現場で活かせるものだらけだった。
・子どもと一緒に活動することができると、なお良いと感じました。
・今回学んだことを、保育の場で生かしたいと思いました。

【課題と方策】

・焚き火体験で時間がかかってしまい、準備や後片付けで時間がのびてしまうところがあったので、講師の先生と職員がさらに連携をして行う必要があった。できれば、講師と職員が活動場所や用具を確認し、職員との細案検討を深めるべきであった。
・今回は、１日での実施であったが、１泊２日にすることで、夜の活動で、キャンプファイヤーの仕方や自然体験活動での安全管理などを学ぶことで指導者としての力をつけることにつながったと思う。
・今回参加した学生が、幼児に関する教育事業にボランティアとして今後参加することで、実践の場として、成果を発揮することにつながる。さらに講師である柴田先生と連携を深めることが大切である。

国立那須甲子青少年自然の家［作成］企画指導専門職　小豆畑　隆則